

**香取市人口分析結果
報告書
(暫定版)**

令和4年4月

目次

第1章 人口の動向	1
1. 香取市全体の人口動向	1
(1) 総人口及び年齢階層別人口の動向	1
(2) 自然増減の状況	3
(3) 社会増減の状況	4
2. 各地域の人口動向	5
(1) 地域別人口の推移と増減率	5
(2) 地域別の年齢階層別人口推移	6
3. 人口推計と実際人口の乖離分析	9
第2章 人口の将来推計	10
1. 人口推計結果速報版	10
2. 人口推計結果速報版（年齢3区分人口）	11

第1章 人口の動向

1. 香取市全体の人口動向

(1) 総人口及び年齢階層別人口の動向

香取市全体の人口は2013年から2022年の間に10,155人減少しており、減少率は12.2%であった。増減を年齢階層別にみると年少人口（0～14歳人口）、生産年齢人口（15～64歳人口）が減少した一方で、老年人口（65歳以上人口）は増加した。

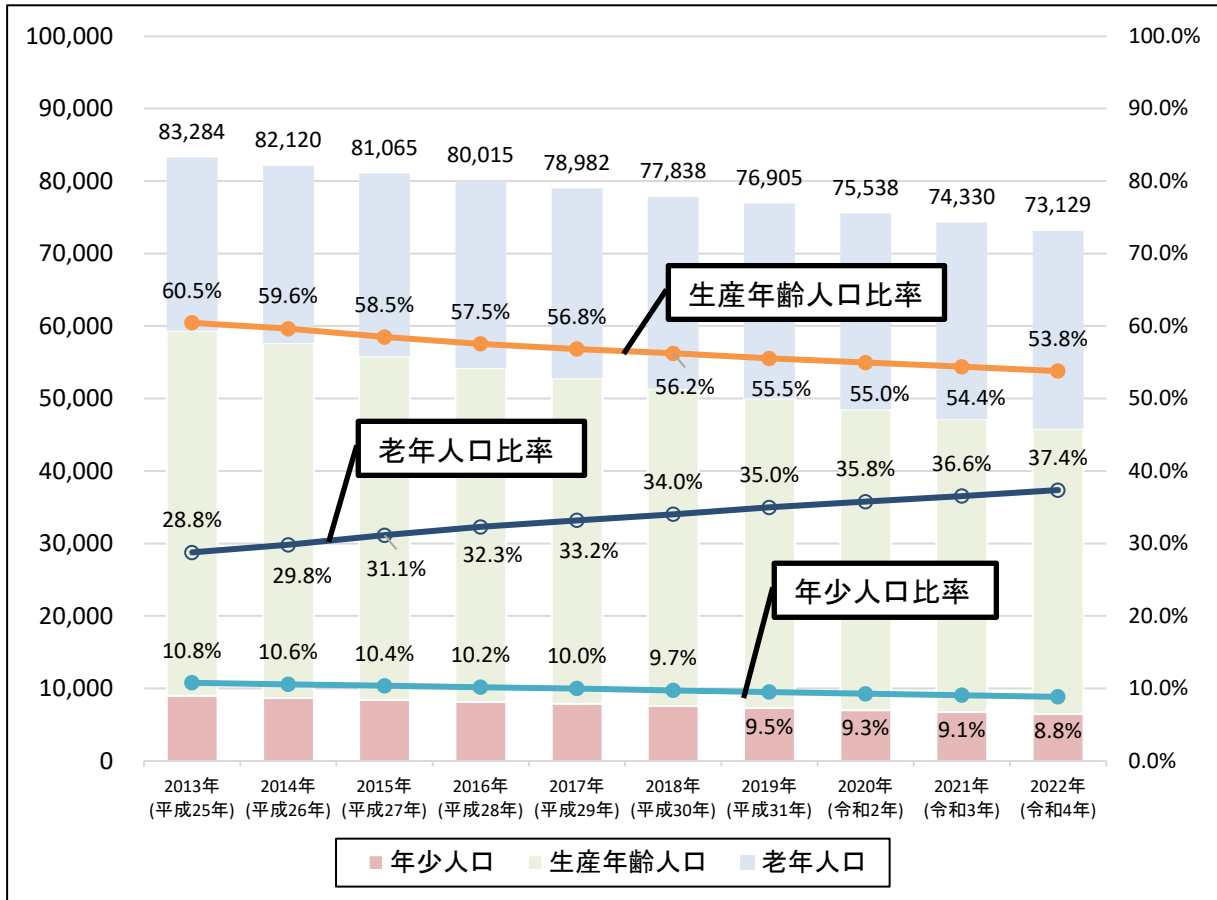
香取市全体の人口は2013年から2022年の間で毎年減少しており、2022年の総人口は2013年と比較して10,155人、12.2%減少した。年齢階層別にみると生産年齢人口が11,008人、21.9%減少しており、2013年から2022年の間に労働力不足が一層進んだことが推察される。また、年少人口も2,526人、28.1%減少している。一方で、老年人口は3,379人、14.1%増加しており、2013年～2022年の間で少子高齢化がさらに進んでいる。

香取市の総人口及び年齢階層別人口の増減（2013年→2022年）

人口数/比率	2013年 (平成25年)	2022年 (令和4年)	増減数 (2013年→ 2022年)	増減率 (2013年→ 2022年)
香取市全体	83,284	73,129	-10,155	-12.2%
年少人口	8,987	6,461	-2,526	-28.1%
生産年齢人口	50,351	39,343	-11,008	-21.9%
老年人口	23,946	27,325	3,379	14.1%
年少人口比率	10.8%	8.8%	-2.0%	-18.1%
生産年齢人口比率	60.5%	53.8%	-6.7%	-11.0%
老年人口比率	28.8%	37.4%	8.6%	30.0%

資料) 「住民基本台帳（各年1月1日時点）」より作成

香取市の総人口及び年齢階層別人口推移（2013年～2022年）

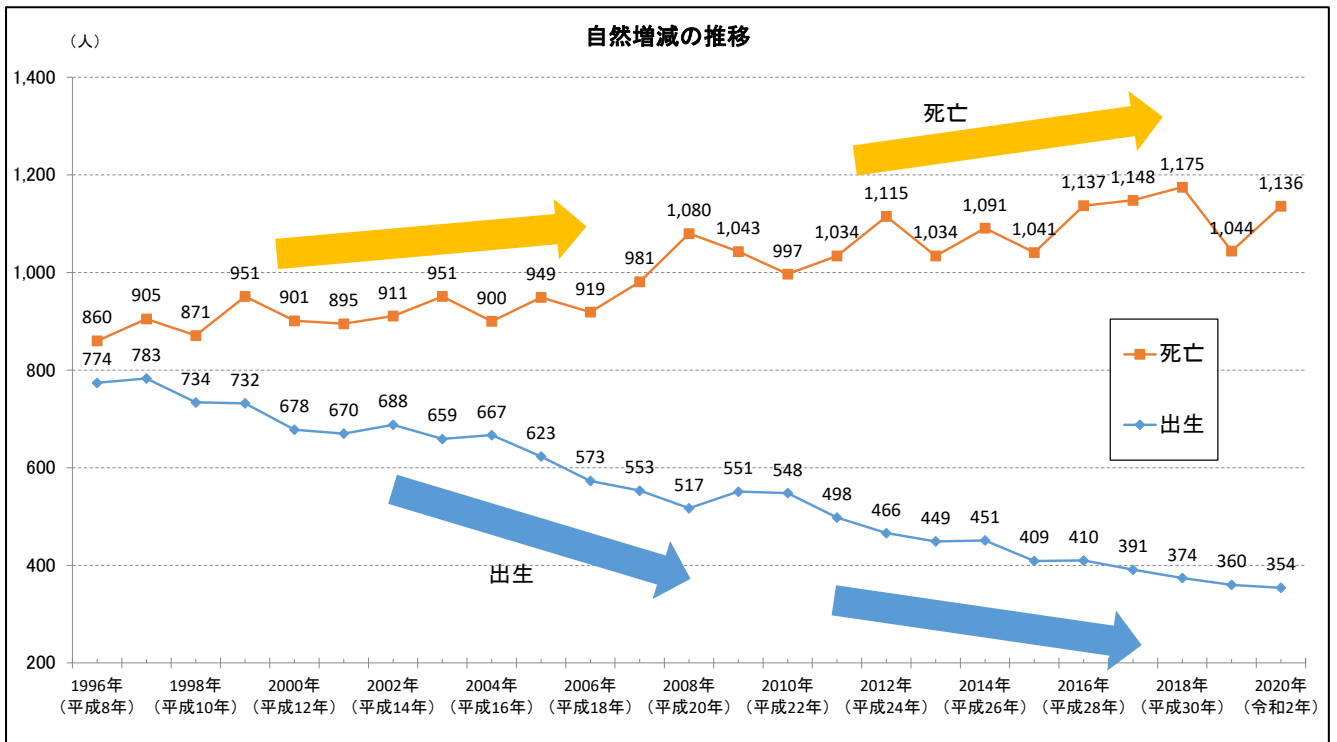


資料) 「住民基本台帳 (各年 1 月 1 日時点)」より作成

(2) 自然増減の状況

死亡数は増加しており、出生数は減少している。自然増減数はマイナス幅が大きくなる傾向が見られる。

「出生」と「死亡」の差である自然増減は以下の通りであり、出生数は概ね年々減少、死亡数は概ね増加の傾向を示しており、その差は拡大傾向となっている。また、その差である「自然増減数」は直近では、年間－800人程度となっている。



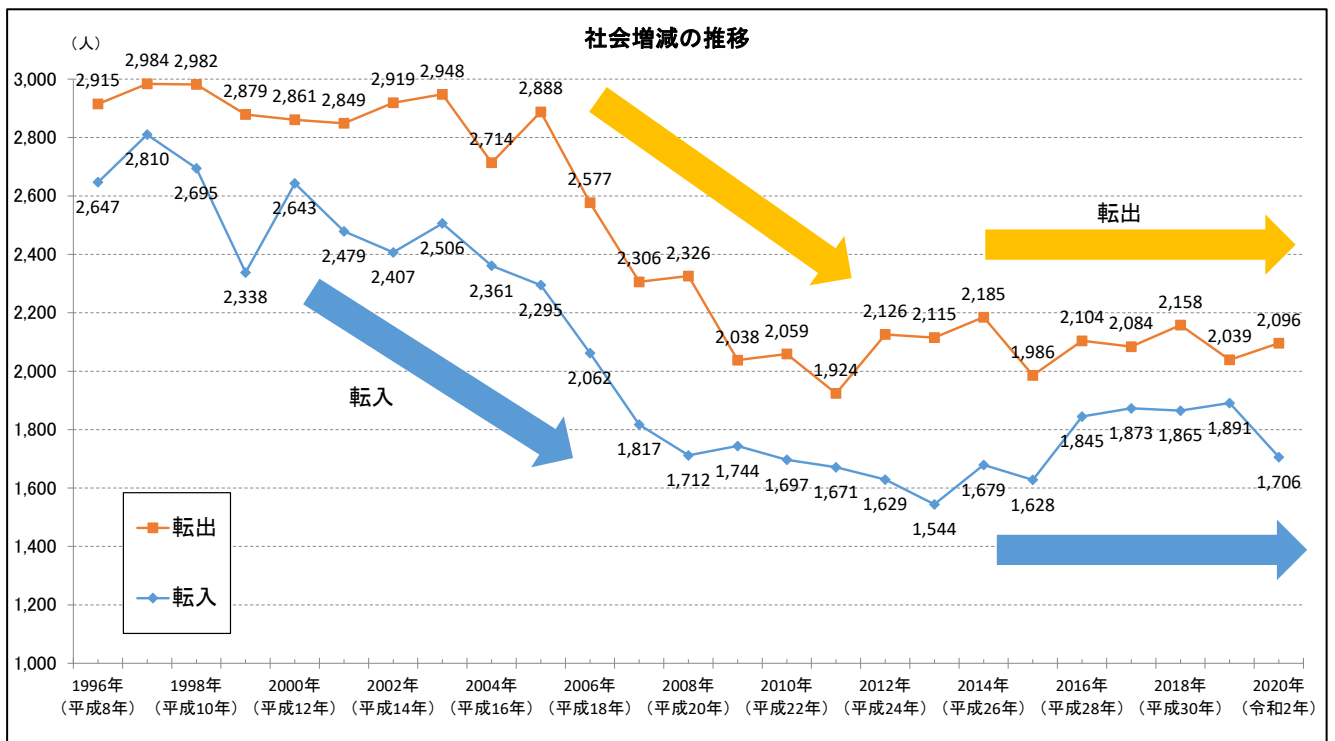
	1996年 (平成8年)	1997年 (平成9年)	1998年 (平成10年)	1999年 (平成11年)	2000年 (平成12年)	2001年 (平成13年)	2002年 (平成14年)	2003年 (平成15年)	2004年 (平成16年)	2005年 (平成17年)	2006年 (平成18年)	2007年 (平成19年)	2008年 (平成20年)
出生	774	783	734	732	678	670	688	659	667	623	573	553	517
死亡	860	905	871	951	901	895	911	951	900	949	919	981	1080
自然増減	▲ 86	▲ 122	▲ 137	▲ 219	▲ 223	▲ 225	▲ 223	▲ 292	▲ 233	▲ 326	▲ 346	▲ 428	▲ 563

	2009年 (平成21年)	2010年 (平成22年)	2011年 (平成23年)	2012年 (平成24年)	2013年 (平成25年)	2014年 (平成26年)	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (平成31年)	2020年 (令和2年)
出生	551	548	498	466	449	451	409	410	391	374	360	354
死亡	1043	997	1034	1115	1034	1091	1041	1137	1148	1175	1044	1136
自然増減	▲ 492	▲ 449	▲ 536	▲ 649	▲ 585	▲ 640	▲ 632	▲ 727	▲ 757	▲ 801	▲ 684	▲ 782

(3) 社会増減の状況

1996年以降、転出超過傾向が続いている。また、直近5年ほどの期間において、転入数はやや持ち直しており、転出数もほぼ横ばいの傾向を示している。社会増減数は2020年にマイナス傾向が一旦拡大しているものの、直近5年ほどの傾向は横ばいとなっている。

「転入」と「転出」の差である社会増減は以下の通りであり、1996年以降、一貫して転出超過が続いている。また、2000年代前半から2011年ごろにかけて、「転入数」「転出数」とともに徐々に減少し、それ以降も転出超過のままではあるが、横ばい傾向を示している。2020年には社会増減が-390人となったが、直近5年では-300~-200人程度と横ばいの傾向である。



	1996年 (平成8年)	1997年 (平成9年)	1998年 (平成10年)	1999年 (平成11年)	2000年 (平成12年)	2001年 (平成13年)	2002年 (平成14年)	2003年 (平成15年)	2004年 (平成16年)	2005年 (平成17年)	2006年 (平成18年)	2007年 (平成19年)	2008年 (平成20年)
転入	2647	2810	2695	2338	2643	2479	2407	2506	2361	2295	2062	1817	1712
転出	2915	2984	2982	2879	2861	2849	2919	2948	2714	2888	2577	2306	2326
社会増減	▲ 268	▲ 174	▲ 287	▲ 541	▲ 218	▲ 370	▲ 512	▲ 442	▲ 353	▲ 593	▲ 515	▲ 489	▲ 614

	2009年 (平成21年)	2010年 (平成22年)	2011年 (平成23年)	2012年 (平成24年)	2013年 (平成25年)	2014年 (平成26年)	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (平成31年)	2020年 (令和2年)
転入	1744	1697	1671	1629	1544	1679	1628	1845	1873	1865	1891	1706
転出	2038	2059	1924	2126	2115	2185	1986	2104	2084	2158	2039	2096
社会増減	▲ 294	▲ 362	▲ 253	▲ 497	▲ 571	▲ 506	▲ 358	▲ 259	▲ 211	▲ 293	▲ 148	▲ 390

2. 各地域の人口動向

(1) 地域別人口の推移と増減率

いずれの地域も 2013 年から 2022 年の間に人口が減少している。

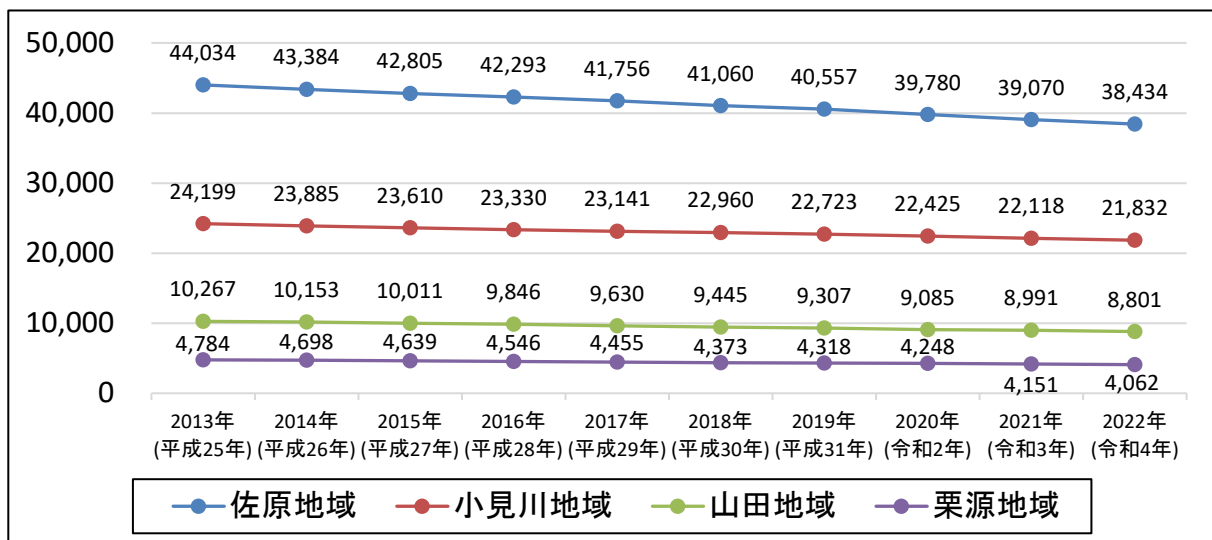
2013 年から 2022 年の間に、佐原地域では 5,600 人、小見川地域では 2,367 人、山田地域では 1,466 人、栗源地域では 722 人減少した。減少率で見ると最も高いのが栗源地域で 15.1%、最も低いのが小見川地域で 9.8%の減少であった。

香取市の地域別人口の増減 (2013 年→2022 年)

人口数/比率	2013年 (平成25年)	2022年 (令和4年)	増減数 (2013年→ 2022年)	増減率 (2013年→ 2022年)
香取市全体	83,284	73,129	-10,155	-12.2%
佐原地域	44,034	38,434	-5,600	-12.7%
小見川地域	24,199	21,832	-2,367	-9.8%
山田地域	10,267	8,801	-1,466	-14.3%
栗源地域	4,784	4,062	-722	-15.1%
佐原地域人口比率	52.9%	52.6%	-0.3%	-0.6%
小見川地域人口比率	29.1%	29.9%	0.8%	2.7%
山田地域人口比率	12.3%	12.0%	-0.3%	-2.4%
栗源地域人口比率	5.7%	5.6%	-0.2%	-3.3%

資料) 「住民基本台帳 (各年 1 月 1 日時点)」より作成

香取市の地域別人口推移 (2013 年～2022 年)



資料) 「住民基本台帳 (各年1月1日時点)」より作成

(2) 地域別の年齢階層別人口推移

いずれの地域も年少人口、生産年齢人口比率が減少する一方で、老年人口比率が増加している。

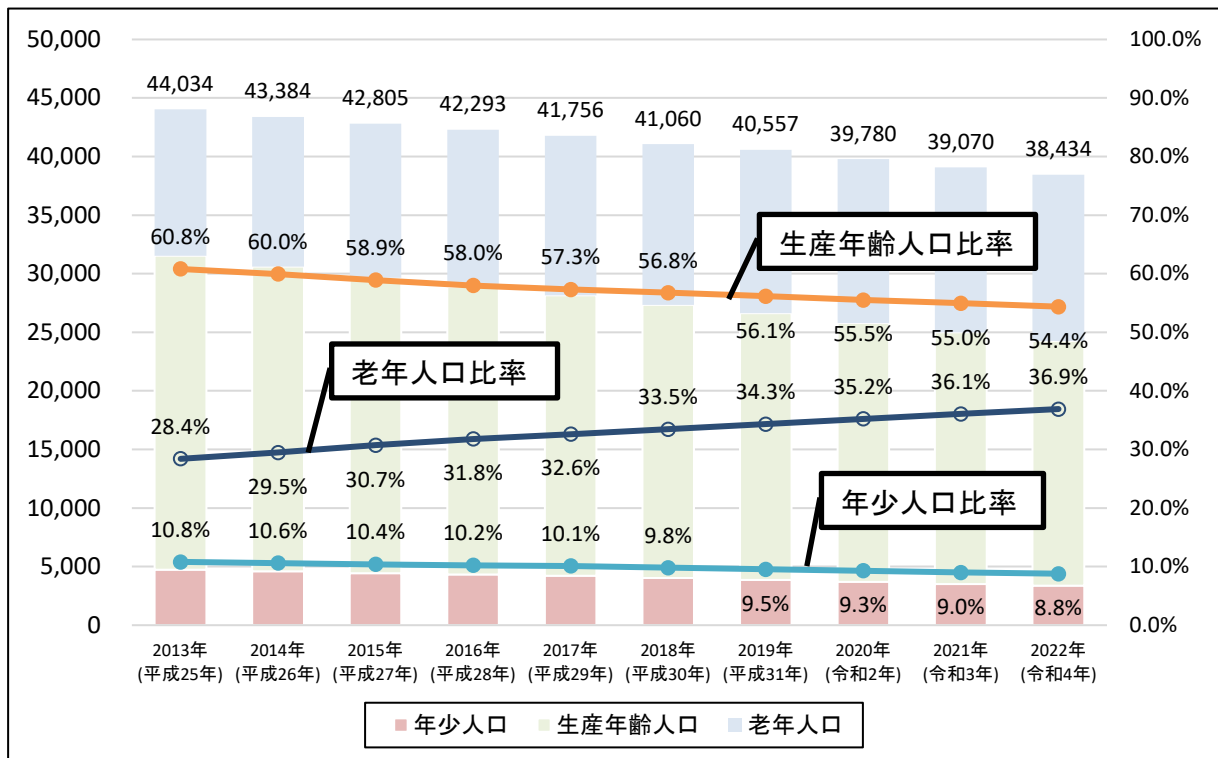
佐原地域は、生産年齢人口比率が最も高いが、実数の減少が最も多く、佐原地域の生産年齢人口の減少が香取市全体の人口減少に与える影響は大きい。また、佐原地域の老年人口比率は最も低く、老年人口比率の上昇は緩やかである。

小見川地域は、老年人口比率の上昇が他の地域と比較すると緩やかであり、また、年少人口の割合も最も高い。

山田地域は、老年人口比率が最も高く、生産年齢人口比率も最も低くなっている。直近の老年人口比率の上昇幅は小さくなっている。

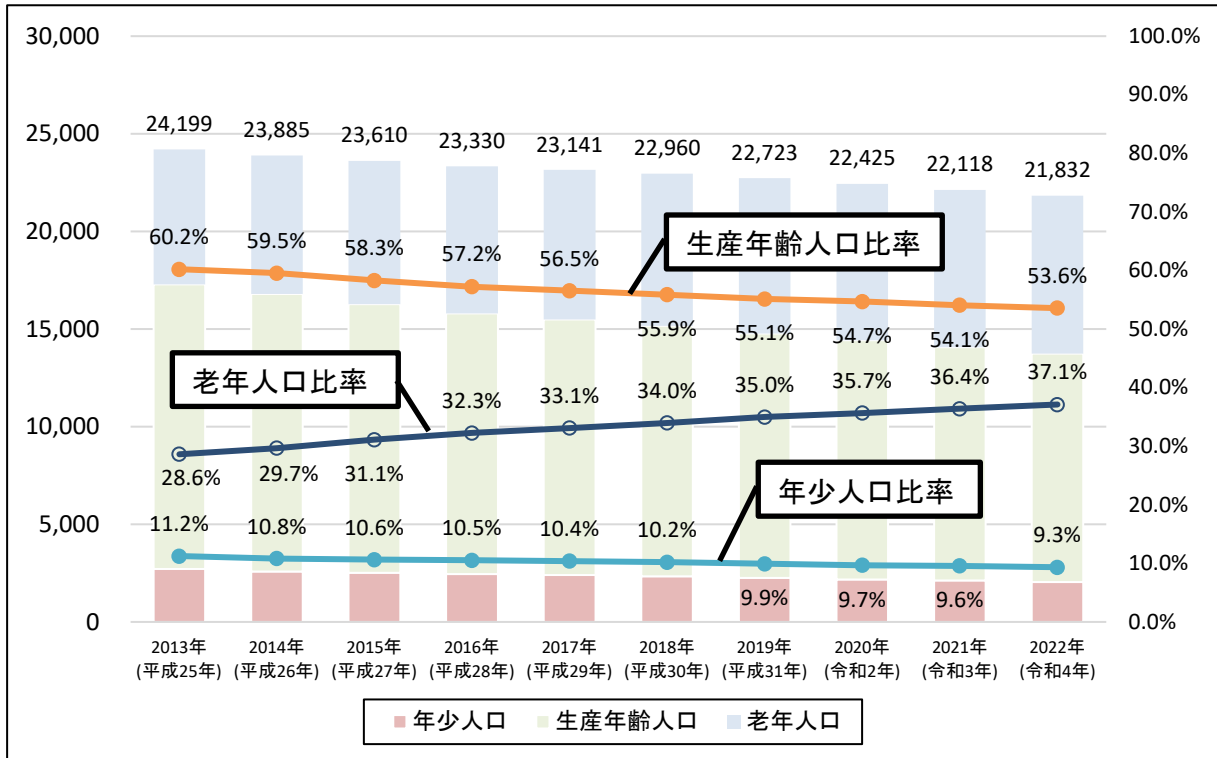
栗源地域は、年少人口比率が最も低く、老年人口比率も上昇していることから、少子高齢化がより進んでいる。

佐原地域の年齢階層別人口推移（2013年～2022年）



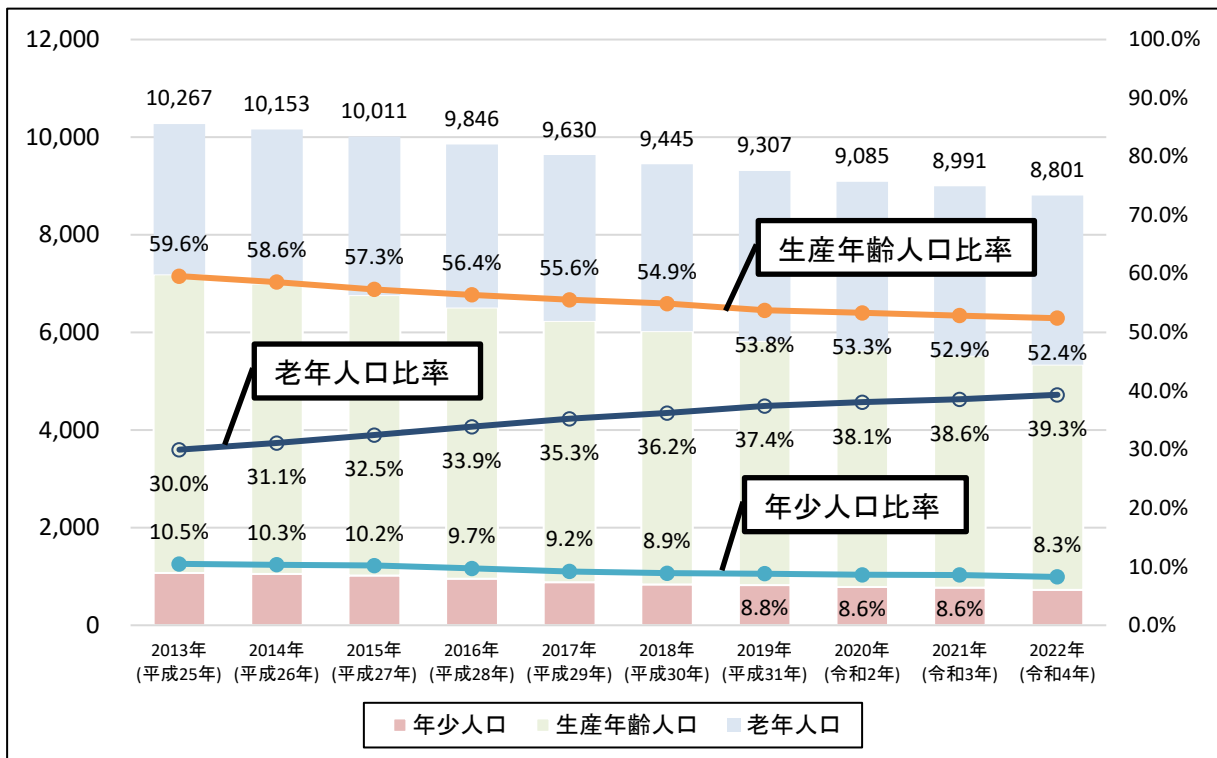
資料) 「住民基本台帳 (各年 1 月 1 日時点)」より作成

小見川地域の年齢階層別人口推移（2013年～2022年）



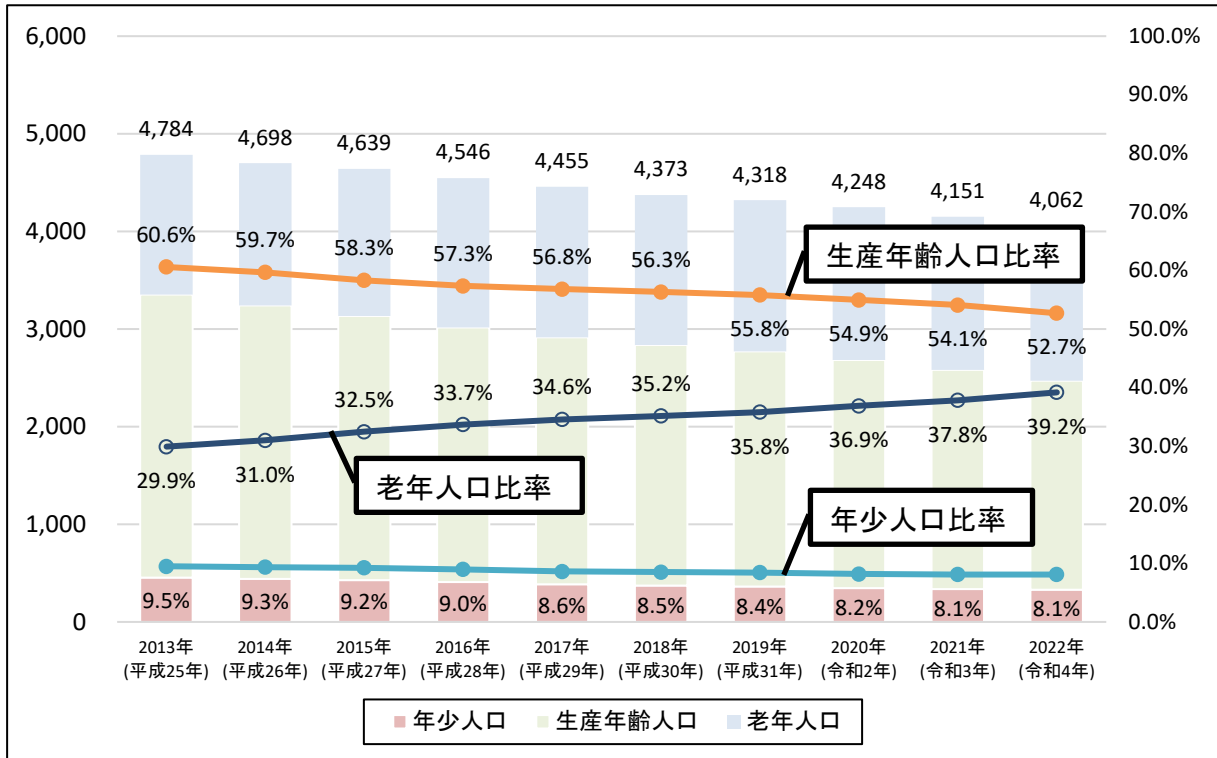
資料) 「住民基本台帳（各年1月1日時点）」より作成

山田地域の年齢階層別人口推移（2013年～2022年）



資料) 「住民基本台帳（各年1月1日時点）」より作成

栗源地域の年齢階層別人口推移（2013年～2022年）



資料) 「住民基本台帳（各年1月1日時点）」より作成

地域別の年齢階層別人口推移（2013年～2022年）

地域	人口数	2013年 (平成25年)	2014年 (平成26年)	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (平成31年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)
佐原	年少人口	4,746	4,593	4,442	4,325	4,219	4,022	3,868	3,694	3,511	3,368
	生産年齢人口	26,774	26,009	25,209	24,523	23,920	23,302	22,769	22,080	21,473	20,892
	老年人口	12,514	12,782	13,154	13,445	13,617	13,736	13,920	14,006	14,086	14,174
	計	44,034	43,384	42,805	42,293	41,756	41,060	40,557	39,780	39,070	38,434
小見川	年少人口	2,714	2,584	2,511	2,453	2,400	2,337	2,252	2,170	2,116	2,037
	生産年齢人口	14,561	14,216	13,759	13,351	13,081	12,825	12,523	12,260	11,956	11,697
	老年人口	6,924	7,085	7,340	7,526	7,660	7,798	7,948	7,995	8,046	8,098
	計	24,199	23,885	23,610	23,330	23,141	22,960	22,723	22,425	22,118	21,832
山田	年少人口	1,073	1,049	1,020	955	884	838	820	781	772	727
	生産年齢人口	6,117	5,946	5,740	5,554	5,351	5,185	5,004	4,844	4,752	4,613
	老年人口	3,077	3,158	3,251	3,337	3,395	3,422	3,483	3,460	3,467	3,461
	計	10,267	10,153	10,011	9,846	9,630	9,445	9,307	9,085	8,991	8,801
栗源	年少人口	454	439	428	408	384	372	363	347	336	329
	生産年齢人口	2,899	2,803	2,705	2,607	2,531	2,463	2,409	2,334	2,245	2,141
	老年人口	1,431	1,456	1,506	1,531	1,540	1,538	1,546	1,567	1,570	1,592
	計	4,784	4,698	4,639	4,546	4,455	4,373	4,318	4,248	4,151	4,062

3. 人口推計と実際人口の乖離分析

2018年に公表された「国立社会保障・人口問題研究所」（以下「社人研」という。）の2020年における人口推計と、2020年国勢調査の実績を比較すると、実績が推計を上回る結果となったが、「0～4歳」および「女性」の「20～24歳」「25～29歳」「30～34歳」は実数が推計を下回った。

2018年に公表された2015年国勢調査を基準とした社人研の2020年における人口推計と、2020年国勢調査の実績を比較すると、男女合計の総数では推計が71,793人に対し、実績が72,356人となり、実績が僅かに上回る結果であった。しかしながら、年齢区分別にみると「0～4歳」は実績が推計を下回っており、想定よりも子どもが少なくなっている。さらに男女別年齢区分別にみると「女性」の「20～24歳」「25～29歳」「30～34歳」も実績が推計を下回っていることから、今後、さらに子どもが減少し、想定よりも速いペースで少子高齢化が進むことが推察される。

男女別年齢5歳区分別の人口推計結果と実数

2020年 人口	男			女			合計		
	社人研 推計	国勢調査 実績	差	社人研 推計	国勢調査 実績	差	社人研 推計	国勢調査 実績	差
0～4歳	988	906	-82	940	852	-88	1,928	1,759	-169
5～9歳	1,197	1,211	14	1,024	1,047	23	2,221	2,258	37
10～14歳	1,307	1,354	47	1,296	1,334	38	2,603	2,688	85
15～19歳	1,495	1,518	23	1,365	1,435	70	2,860	2,953	93
20～24歳	1,279	1,360	81	1,204	1,191	-13	2,483	2,552	69
25～29歳	1,404	1,374	-30	1,267	1,192	-75	2,671	2,566	-105
30～34歳	1,629	1,679	50	1,432	1,419	-13	3,061	3,098	37
35～39歳	1,850	1,848	-2	1,582	1,611	29	3,432	3,459	27
40～44歳	2,125	2,190	65	1,903	1,948	45	4,028	4,138	110
45～49歳	2,604	2,636	32	2,367	2,395	28	4,971	5,031	60
50～54歳	2,319	2,341	22	2,163	2,217	54	4,482	4,558	76
55～59歳	2,496	2,530	34	2,407	2,451	44	4,903	4,981	78
60～64歳	2,723	2,711	-12	2,646	2,670	24	5,369	5,381	12
65～69歳	3,218	3,265	47	3,194	3,210	16	6,412	6,475	63
70～74歳	3,325	3,361	36	3,478	3,482	4	6,803	6,843	40
75～79歳	2,121	2,151	30	2,573	2,568	-5	4,694	4,718	24
80～84歳	1,679	1,693	14	2,265	2,303	38	3,944	3,996	52
85～89歳	1,037	979	-58	1,901	1,880	-21	2,938	2,859	-79
90歳以上	503	518	15	1,487	1,527	40	1,990	2,045	55
総数	35,299	35,626	327	36,494	36,730	236	71,793	72,356	563

第2章 人口の将来推計

1. 人口推計結果速報版

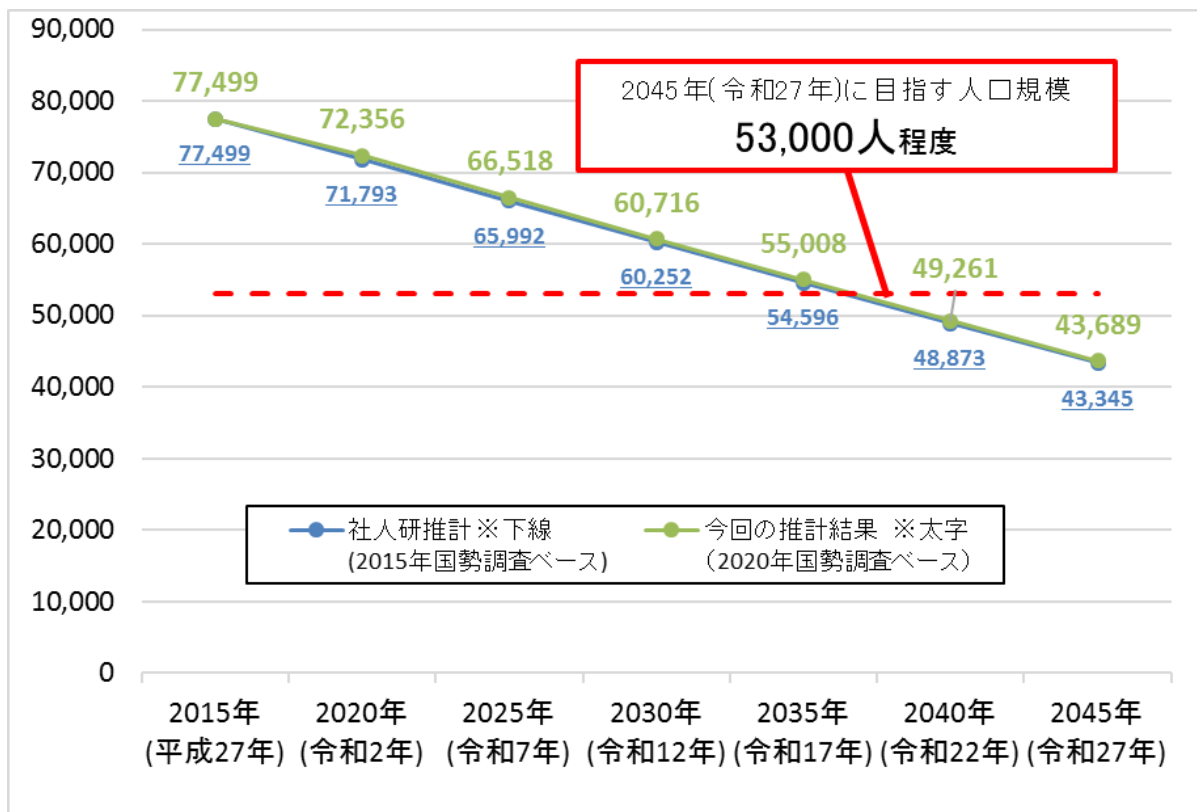
香取市の人口は減少を続け、2025年に7万人を、2035年に6万人を、2040年に5万人を下回ると予測されている。総人口の見通しは、社人研推計よりも人口減少のスピードがやや遅くなっている。

2018年に公表された「社人研推計(B)」と2020年国勢調査人口をもとに推計した「今回の推計結果(A)」は以下のとおりである。どちらも、総人口については、2025年以降も一定のペースで減少を続け、人口ビジョン(令和2年度改訂版)で目指している53,000人を2035年から2040年の間に下回ると予測されている。一方で、今回の推計結果は社人研推計値よりも2020年の実際の人口(国勢調査人口)で563人上回っており、人口減少のスピードがやや遅くなっている。それに伴い、2045年時点においても社人研推計を若干ではあるが、上回るものと推測される。

人口推計(速報版)結果と増減数、増減率

	2015年 (平成27年) ※実数	2020年 (令和2年)	2025年 (令和7年)	2030年 (令和12年)	2035年 (令和17年)	2040年 (令和22年)	2045年 (令和27年)	増減数 (2020年→ 2045年)	増減率 (2020年→ 2045年)
(A)今回の推計結果 ※太字 (2020年国勢調査ベース)	77,499	72,356 ※実数	66,518	60,716	55,008	49,261	43,689	-28,667	-39.6%
(B)社人研推計 ※下線 (2015年国勢調査ベース)	77,499	71,793 ※推計値	65,992	60,252	54,596	48,873	43,345	-	-
(A)-(B)	-	563	526	464	412	388	344	-	-

人口推計(速報版)結果



※推計にあたってはコーホート要因法を採用し、生残率、移動率、子ども女性比（≒出生率）、出生性比は社人研推計（平成30年）のものを使用

※基準人口は2020年10月の国勢調査結果（全市）を使用

2. 人口推計結果速報版（年齢3区分人口）

今回の推計結果において、2020年と2045年を比較すると年少人口比率はマイナス1.9ポイント、生産年齢人口比率はマイナス9.9ポイントとなっている。一方で老年人口比率はプラス11.7ポイントと大幅なプラスであり、少子高齢化が加速する見込みである。

年齢3区分人口を見ると、2020年と2045年の比較において、年少人口比率はマイナス1.9ポイント、生産年齢人口比率はマイナス9.9ポイントとなっている。その一方で老年人口比率はプラス11.7ポイントと大幅なプラスとなっており、今後も少子高齢化が加速する見込みである。また、「今回の推計結果(A)」と「社人研推計(B)」を比較すると、先述した通り総人口数は若干、持ち直しているものの、年少人口は社人研推計よりも少なく、年少人口比率および生産年齢人口比率は社人研推計を若干、下回ることから少子高齢化のスピードはやや速くなっていることがうかがえる。

【今回の推計結果(A)】

	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)	令和27年 (2045)
総人口	77,499	72,356	66,518	60,716	55,008	49,261	43,689
年少人口(0～14歳)	7,992	6,705	5,635	4,828	4,302	3,737	3,243
生産年齢人口(15～64歳)	43,853	38,716	34,287	30,202	26,383	22,313	19,070
老年人口(65歳以上)	25,654	26,935	26,596	25,686	24,322	23,211	21,376

年少人口比率(0～14歳)	10.3%	9.3%	8.5%	8.0%	7.8%	7.6%	7.4%
生産年齢人口比率(15～64歳)	56.6%	53.5%	51.5%	49.7%	48.0%	45.3%	43.6%
老年人口比率(65歳以上)	33.1%	37.2%	40.0%	42.3%	44.2%	47.1%	48.9%

【社人研推計(B)】

	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)	令和27年 (2045)
総人口	77,499	71,794	65,991	60,253	54,596	48,870	43,343
年少人口(0～14歳)	7,992	6,752	5,760	4,982	4,301	3,757	3,263
生産年齢人口(15～64歳)	43,853	38,260	33,789	29,778	26,201	22,146	19,003
老年人口(65歳以上)	25,654	26,782	26,443	25,494	24,094	22,967	21,076

年少人口比率(0～14歳)	10.3%	9.4%	8.7%	8.3%	7.9%	7.7%	7.5%
生産年齢人口比率(15～64歳)	56.6%	53.3%	51.2%	49.4%	48.0%	45.3%	43.8%
老年人口比率(65歳以上)	33.1%	37.3%	40.1%	42.3%	44.1%	47.0%	48.6%

年少人口(A)-(B)	-	-47	-125	-154	1	-20	-20
生産年齢人口(A)-(B)	-	456	498	424	182	167	67
老年人口(A)-(B)	-	153	153	192	228	244	300